

平成 22 年度本委員会の活動報告

本委員会の活動に関し、本日までにとりまとめた内容につき、下記のようにご報告申し上げます。

平成 22 年度本委員会委員

委員長	別所 正美	(埼玉医科大学医学部長～内科学)
委員	本橋 豊	(秋田大学医学部長～公衆衛生学)
委員	大原 義朗	(金沢医科大学教授～生態感染防御学)
委員	阿部 正文	(福島県立医科大学医学部長～病理科)
委員	持田 智	(埼玉医科大学医学部教授～内科学)
委員	水谷 修紀	(東京医科歯科大学医学部教授～小児科学)
委員	岩本 俊彦	(東京医科大学教授～老年病学)
委員	花房 俊昭	(大阪医科大学附属病院長～内科学)
委員	許 南浩	(岡山大学医学部長～細胞生理学)
委員	松本 俊夫	(徳島大学医学部教授～内科学)
委員	池ノ上 克	(宮崎大学医学部附属病院長～産婦人科学)

本年度の活動方針

平成 22 年 1 月 13 日に委員会を開催し、平成 22 年度の活動方針について検討した。その結果、第 104 回医師国家試験(国試)に関して、受験生および教官(員)を対象としたアンケート調査、出題された試験問題についての調査を実施することとした。

アンケートについては、次の項目について実施することとした。①受験生を対象とした第 104 回国試の試験問題および実施状況等に関する調査、②教官(員)を対象とした第 104 回国試および関連事項に関する調査、③出題された試験問題が国試として適当か否かの調査。なお、②の教官(員)に対するアンケートは全国 80 大学にお願いしたが、①と③については、本委員会委員の所属する大学にお願いすることとした。アンケートの質問事項は、継続性を持たせるために昨年度と同様の質問を基本としたが、一部は国試を取りまく環境の変化を踏まえて新たな質問を追加することとした。

受験生に対するアンケート調査

対象：以下の 10 の大学医学部・医科大学(私立 4 校、公立 2 校、国立 4 校)の卒業生 899 名。

埼玉医科大学、東京医科大学、金沢医科大学、大阪医科大学、横浜市立大学、福島県立医科大学、東京医科歯科大学、山口大学、徳島大学、宮崎大学

調査時期：第 104 回医師国家試験が実施された直後の平成 22 年 2 月末に配布し、国試の合否が発表される前に回収した。

回収率：対象数 899 名に対して回収数は 654 で、回収率は全体としては 72.7%であった。(昨年度の $743/929=80.0\%$)。私立大学 4 校の回収率は $258/399=64.7\%$ 、公立大学 2 校は $124/140=88.6\%$ 、国立大学 4 校は $272/360=75.6\%$ であった。

調査結果：アンケートは資料 1 に示す。表 1 は、各大学の回答状況を一覧にしたものである。アンケート中コメントを要求した項目は 4 カ所あるが、コメントの内容をまとめたのが表 2～5 である。表 6 は、欄外に書かれていたコメントを記載したものである。コメントに関する過去 8 回のアンケートの結果と

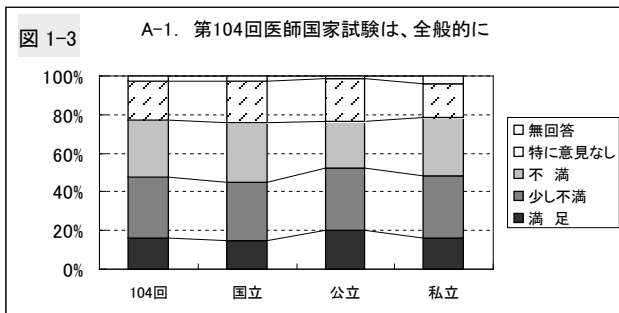
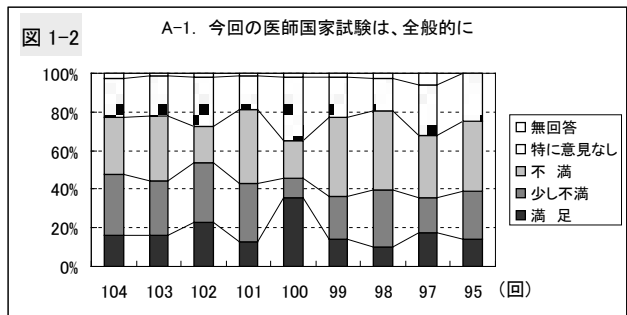
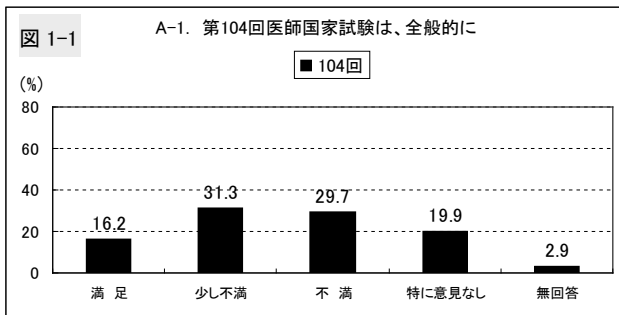
の総括的な比較は表7に示した。

試験会場は以下のとおりであった。埼玉医科大学、東京医科大学、横浜市立大学、東京医科歯科大学は大正大学(東京都)、金沢医科大学は金沢流通会館(石川県)、大阪医科大学は大阪産業大学(大阪府)、福島県立医科大学は産業見本市会館サンフェスタ(宮城県)と東京会場、山口大学は広島会場東京会場、徳島大学は高松市民文化センター(香川県)、宮崎大学は福岡会場。

なお、アンケートに実施に際しては、上記委員に加え、平成21年度の本委員会委員である前川剛志先生(山口大学)、黒岩義之先生(横浜市立大学)にもご協力いただいた。

A. 試験全般に対する意見

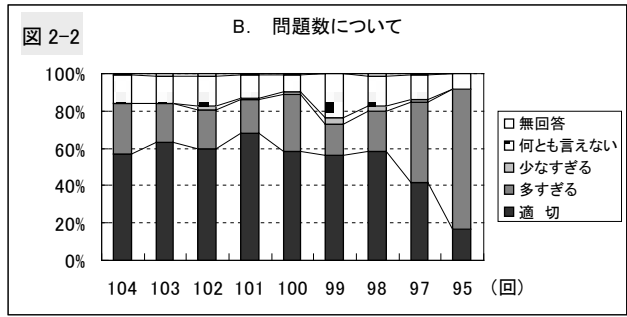
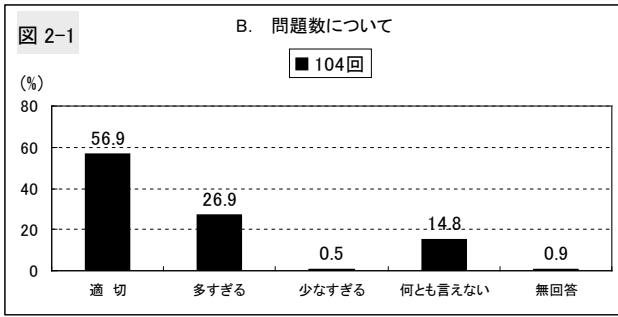
図1-1に示すように「満足」と回答した学生の割合は16.2%で、一昨年より6.4%低下し、昨年(16.0%)とほぼ同程度の数字であった。この数字は、受験生へのアンケート調査を開始した第95回の国試から今回の国試まで過去9回の調査の中で4番目に高い数字である。一方、「不満」および「少し不満」と回答した学生の割合は61%で、一昨年より11.7%増加し、昨年(62.1%)とほぼ同程度であった。



「不満」、「少し不満」と答えた学生のコメントを表2に示す。試験全般に関する設問Aに対して、良好とのコメントは0件、批判的なコメントは352件であった。批判的なコメントの内容を見てみると、89%が試験問題に関するもので、そのうち約50%は難易度に関するもの、約30%が問題の質に関するもの、約19%が必修問題に関するものであった。今年度も昨年度に引き続き、難易度に関するコメントが多かったが、問題の質や必修問題に関するコメントが目立つのも今年度の特徴であった。

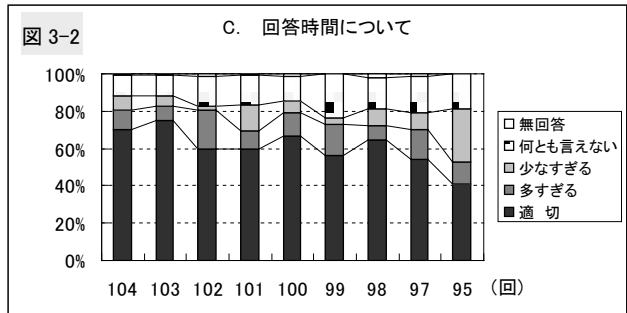
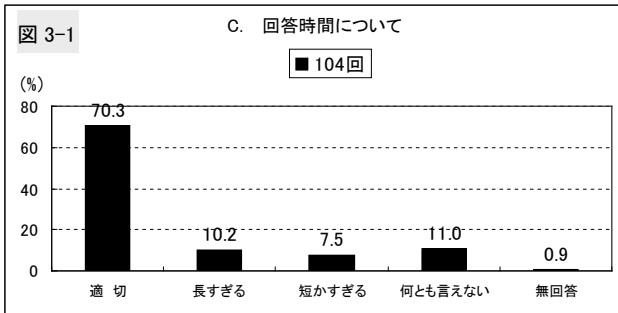
B. 問題数について

「適切」と回答した学生は56.9%(図2-1)で、昨年に比べ6.1%低下したものの、第98回国試以降、約6割の学生が適切と回答している。



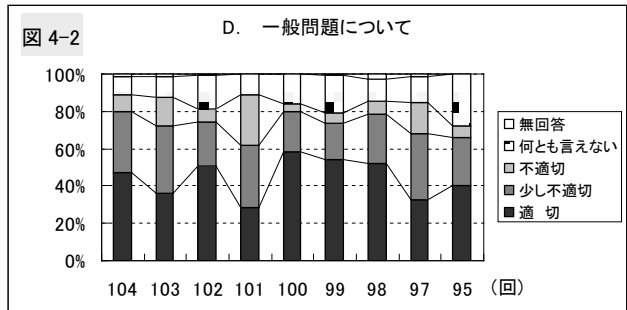
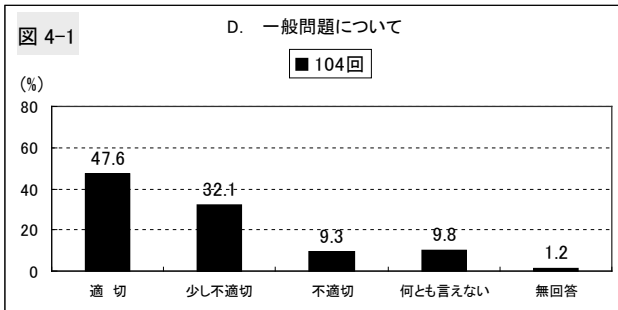
C. 回答時間について

「適切」と回答した学生は 70.3% (図 3-1) で、昨年(第 103 回)に次いで高い数字であった。



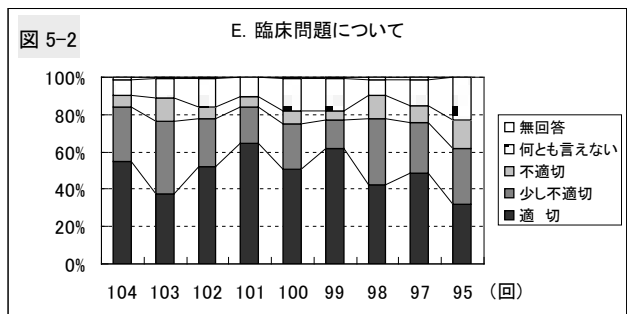
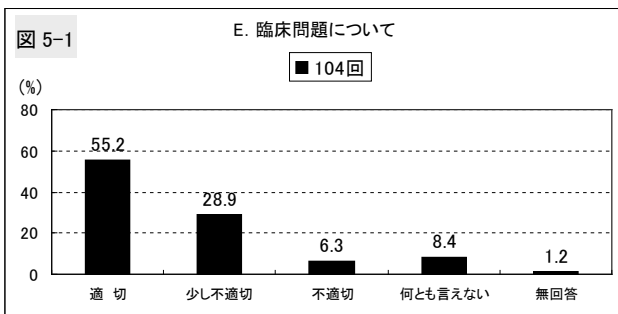
D. 一般問題について

「適切」と回答した学生は 47.6% (図 4-1) で、昨年度より 11.8% 上昇し、ほぼ一昨年並の数字であった。



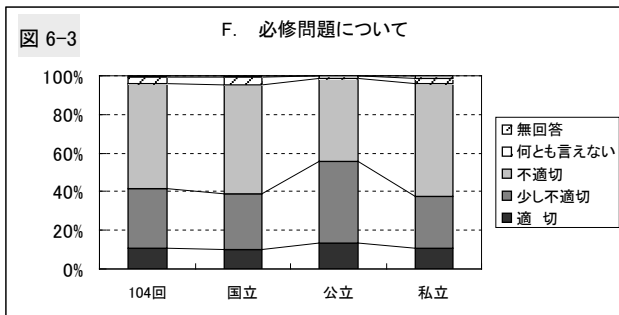
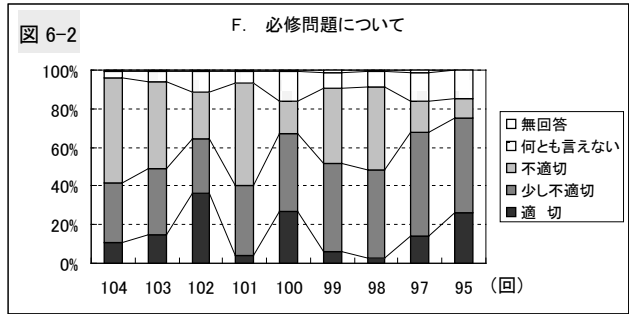
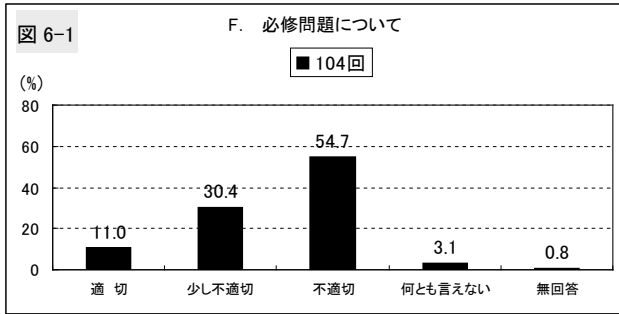
E. 臨床問題について

「適切」と回答した学生は 55.2% (図 5-1) で、第 101 回、第 99 回に次いで 3 番目に高い数字であった。



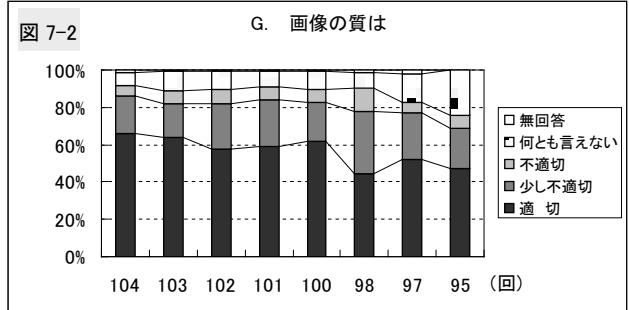
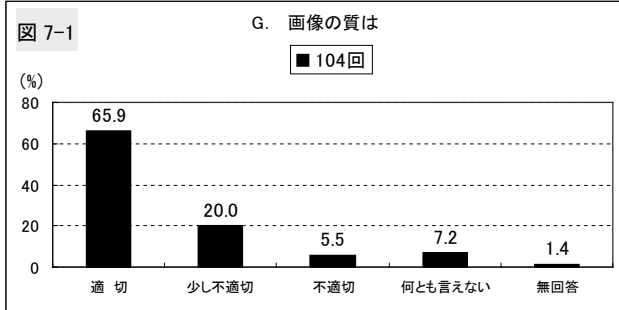
F. 必修問題について

「適切」と回答した学生は11.0% (図6-1) で、昨年に比べ4.1%、一昨年に比べ25.2%低下した。また、「不適切」との回答は54.7%で、今までの調査の中で最も高い数字であった。



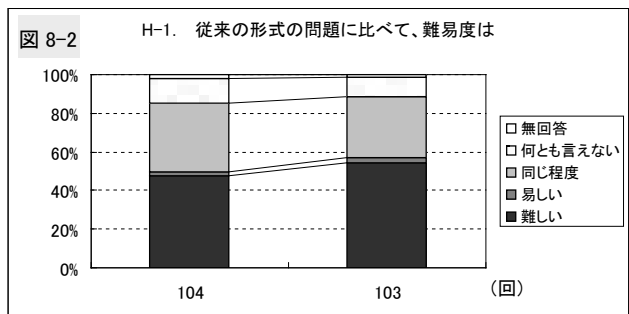
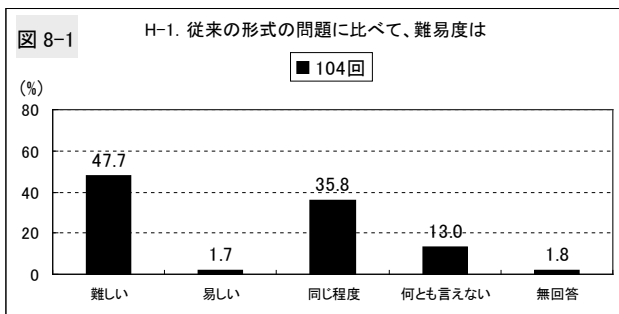
G. 画像の質は

「適切」と回答した学生は65.9% (図7-1) で、過去最高の数字であった。

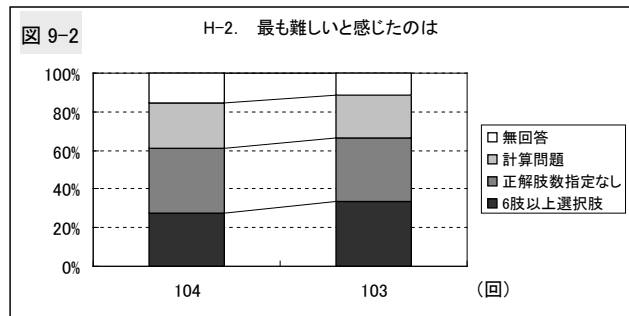
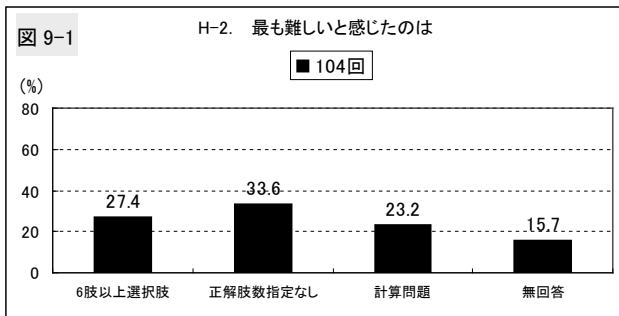


H. 第103回国試から導入された新形式の問題について

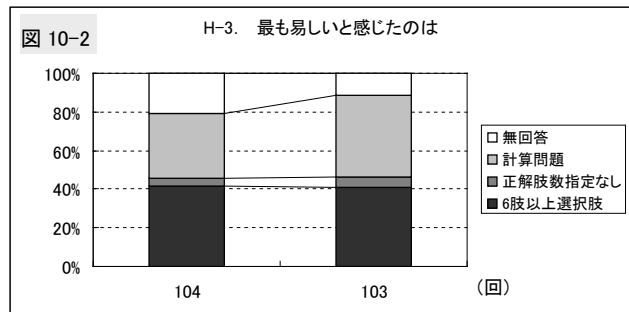
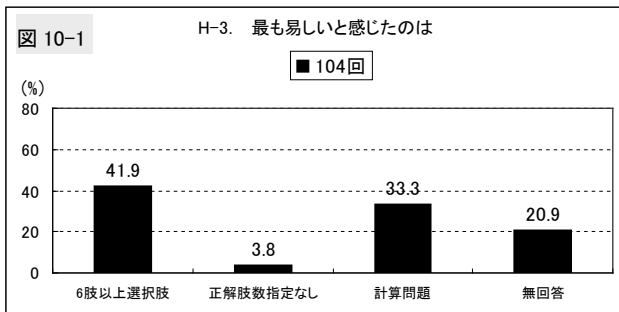
1. 「それまでの形式の問題に比べて、難易度はどのように感じましたか」の問に対して、「難しい」と回答した学生は47.7%、「同じ程度」との回答も35.8%あった (図8-1)。昨年に比べ前者が6.7%低下し、後者が4.3%上昇した。



2. 「最も難しいと感じたのはどれですか」との問に対しては、「6 肢以上の選択肢がある問題」が 27.4%、「正解肢数指定なし問題」が 33.6%、計算問題が 23.2%であった。今年度も「正解肢数指定なし問題」は実際には出題されなかったため、この設問に対する学生の回答については、昨年度と同様に解釈する際に注意を要する。



3. 「最も易しいと感じたのはどれですか」の問に対しては、昨年度とほぼ同様な回答状況であった。

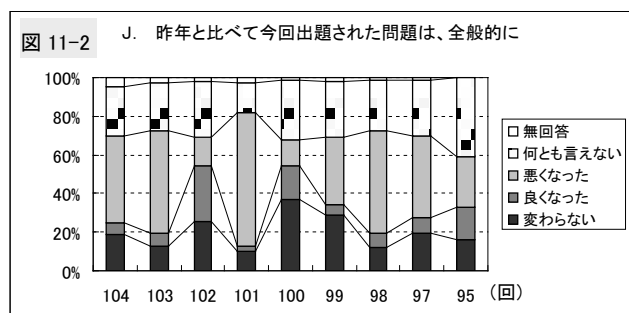
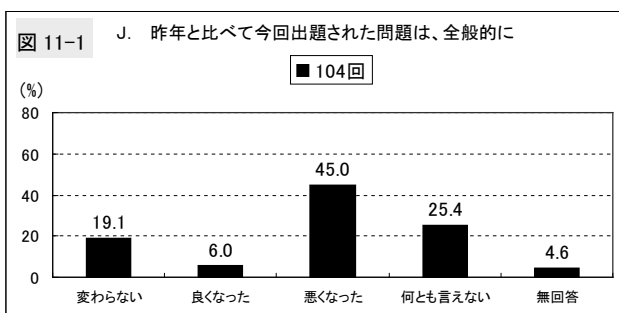


I. 問題の種類、出題形式、画像などについての意見

学生に問題の種類、出題形式、画像などに関する意見を書いてもらった。表 3 に示すように、良好なコメントは 13 件、批判的なコメントは 90 件であった。昨年は前者が 26 件、後者が 133 件であった。批判的なコメントの内容を見ると、昨年度と同様、問題の質、出題形式、画像に関するものが多かったが、必修問題に関するものも目立った。

J. 昨年の国家試験の問題と比べて今回出題された問題は、全般的に

昨年の国試に比べて今回の国試が「良くなった」と回答した学生の割合は 6.0% (図 11-1) と昨年度と同程度の低い数字であった。「悪くなった」との回答は 45.0%で、昨年の回答と比べて 7.8%低下した。



K. 各科の配分について

今回も昨年までと同様に、出題数が多過ぎると思う科、少な過ぎると思う科について具体名を答えてもらった。その結果、「多過ぎる科」については654名中246人(37.6%)から回答が寄せられた。このうち、具体的な科名は313科があげられていた。最も多かった科名は整形外科で、公衆衛生、産婦人科、精神科と続いた(図12-1, 12-2)。

一方、出題数が「少な過ぎる科」については、133人(20.3%)から回答が寄せられた。このうち、具体的な科名は、150科があげられていた。最も多かったのは消化器と循環器、産婦人科と続いた(図12-3, 12-4)。

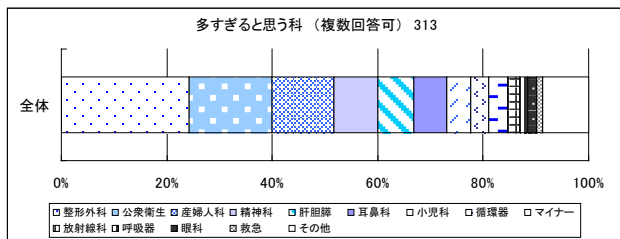
まとめると、整形外科の問題数が多く、消化器と循環器の問題数が少なく出題されたと、学生は感じたようである。

〈多過ぎると思う科〉

図12-1

	国立a	国立b	国立c	国立d	公立e	公立f	私立g	私立h	私立i	私立j	全体
回答あり (%)	39 (65.0%)	28 (39.4%)	12 (20.0%)	42 (51.9%)	26 (37.7%)	21 (38.2%)	11 (26.2%)	11 (25.0%)	30 (34.1%)	26 (31.0%)	246 (37.6%)
回答なし (%)	21 (35.0%)	43 (60.6%)	48 (80.0%)	39 (48.1%)	43 (62.3%)	34 (61.8%)	31 (73.8%)	33 (75.0%)	58 (65.9%)	58 (69.0%)	408 (62.4%)
合計(人数)	60	71	60	81	69	55	42	44	88	84	654
多過ぎると思う科 (複数回答可)											
整形外科	13	9	3	14	6	13	2	2	7	7	76
公衆衛生	1	5	4	15	5	2	2	2	8	5	49
産婦人科	10	5	3	5	1	1	2	2	6	2	37
精神科	6	2	3	7	4	1	1	1	2		26
肝胆膵	7			2		4	2	1			21
耳鼻科	1	1		1	9				5	3	20
小児科	3	5	1	2	1				2		14
循環器		3	1	2			3	2			11
マイナ	4				2			1	3	1	11
放射線	5	1							1	1	7
呼吸器				3			1		1		5
眼科	1				1	1			2		5
救急		1				2				1	4
脳神経外科				2			1				3
皮膚科		1			1		1				3
麻酔科						1			2		3
血液器	1	1									2
消化器	2										2
神経				1							2
内分	1			1							2
分泌								1			1
泌尿								1			1
頭頸	1										1
部学					1						1
法医											1
中									1		1
毒											1
血管				1							1
大動脈											1
解離											1
Down									1		1
症候									1		1
群									1		1
必修									1		1
問題									1		1
臨床									1		1
問題									1		1
適切				1							1
切											1
合	56	34	15	57	31	25	16	12	38	29	313

図12-2

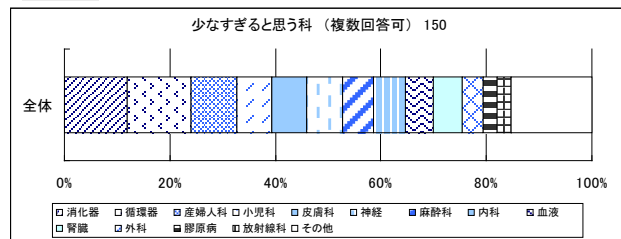


〈少な過ぎると思う科〉

図12-3

	国立a	国立b	国立c	国立d	公立e	公立f	私立g	私立h	私立i	私立j	全体
回答あり (%)	29 (48.3%)	13 (18.3%)	8 (13.3%)	23 (28.4%)	15 (21.7%)	7 (12.7%)	6 (14.3%)	3 (6.8%)	17 (19.3%)	12 (14.3%)	133 (20.3%)
回答なし (%)	31 (51.7%)	58 (81.7%)	52 (86.7%)	58 (71.6%)	54 (78.3%)	48 (87.3%)	36 (85.7%)	41 (93.2%)	71 (80.7%)	72 (85.7%)	521 (79.7%)
合計(人数)	60	71	60	81	69	55	42	44	88	84	654
少な過ぎると思う科 (複数回答可)											
消化器	2	4	1	4	1	2	2		2		18
循環器	3	3	1	2	4	1			2	2	18
産婦人科	1			1	4	2		1	1	3	13
小児科	4			2	2		1			1	10
皮膚科	2	1		3	2				2		10
神経	3	2		1			1	1	1		10
麻酔科	6				2						9
内科	1		2						2	4	9
血液	2			4			1		1		8
腎臓	1			2			1		4		8
外科	4			1						1	6
膠原病	2						2				4
放射線		2		2							4
分泌	1			2							3
マイナ			2		1						3
呼吸器	1								1		2
救急	1			1							2
耳鼻科				1	1						2
病理										2	2
メジャ		2									2
眼				1							1
感染								1			1
症											1
整形									1		1
外											1
泌			1								1
尿											1
英語										1	1
適切									1		1
必要									1		1
修									1		1
問題									1		1
臨床									1		1
問題									1		1
適切									1		1
切									1		1
合	34	14	8	27	17	7	8	3	19	13	150

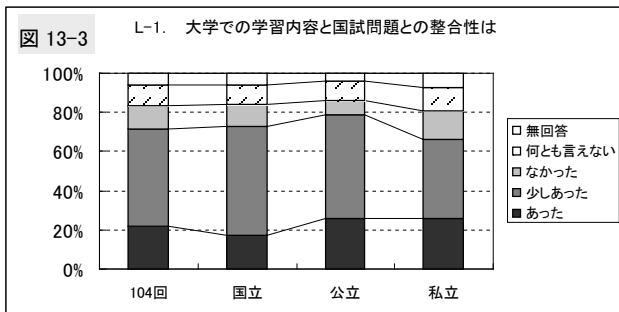
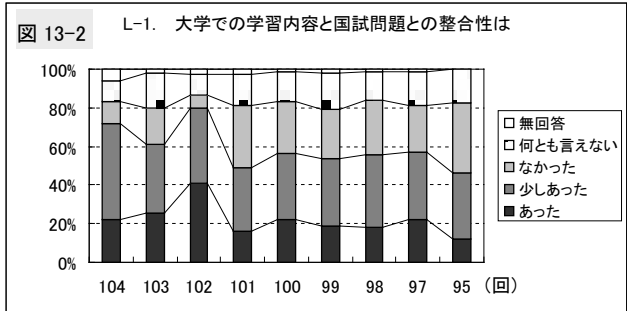
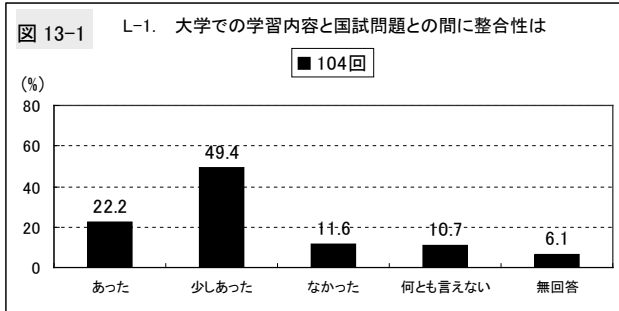
図12-4



L. 在学中の学習と医師国家試験との関係について

1. 大学での学習内容と医師国家試験問題との間に整合性は

整合性が「あった」と回答した学生は22.2%、「少しあった」と回答した学生は49.4%、両者を合わせると71.6%（図13-1）で、第102回に次ぐ高い数字であった。「整合性があった」との回答を大学別にみると、公立と私立に比べて国立で低かった。

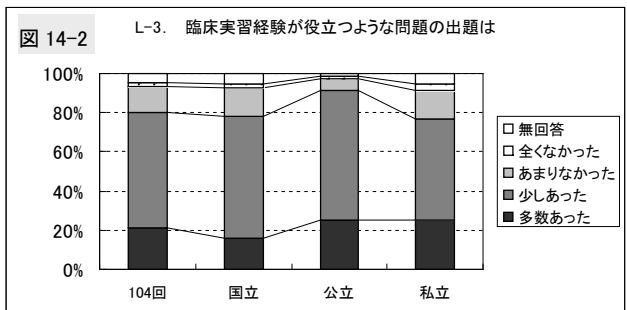
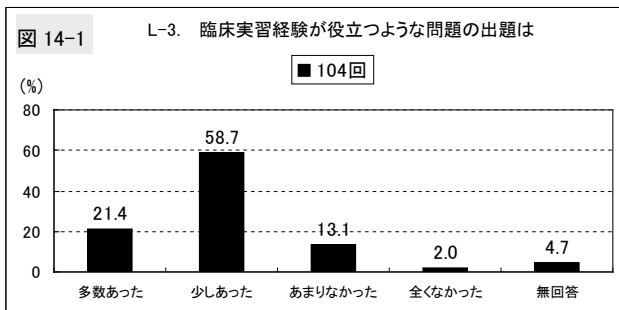


2. 整合性が「なかった」と回答した学生の意見

整合性が「なかった」と回答した学生のコメントを表4に示す。コメントは48件であった。内容的には大学での実習に関する意見、授業に関する意見が多かった。

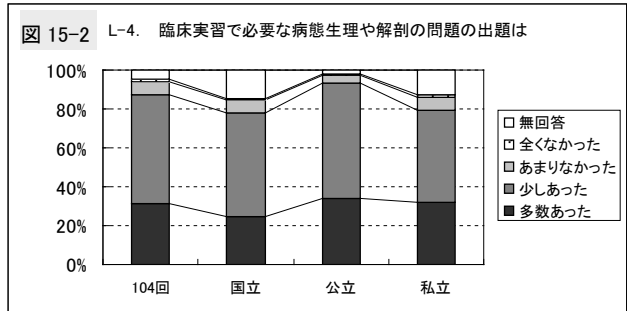
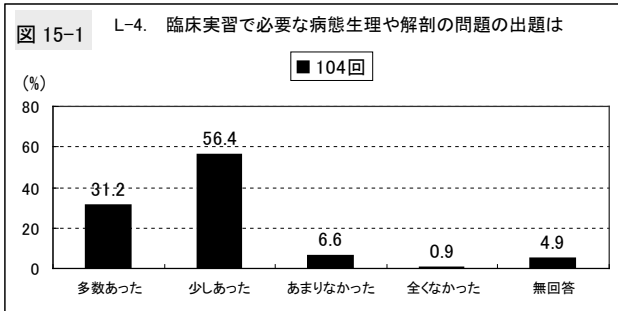
3. 臨床実習を真面目にやっていないと回答できない問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は21.4%、「少しあった」と回答した学生は58.7%で、両者を合わせると80.1%（図14-1）であった。臨床実習に則した問題が多数出題されたと、学生は感じているようである。



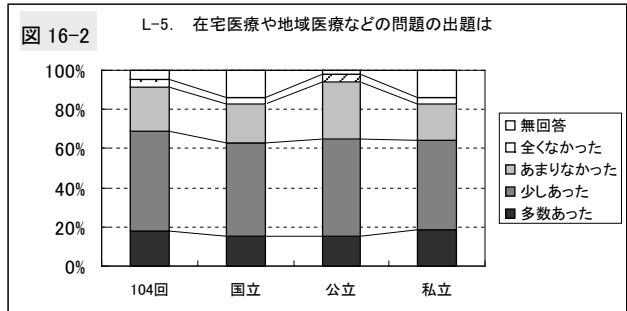
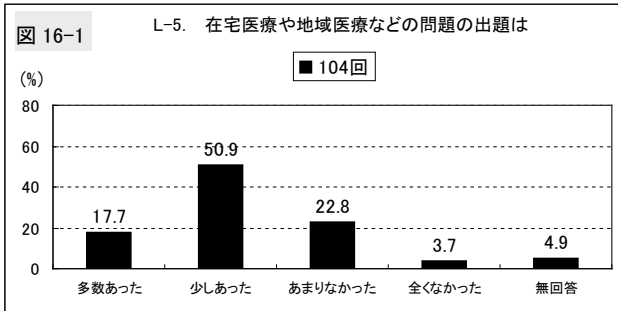
4. 臨床実習をする上で必要な病態生理や解剖などに関する問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は31.2%、「少しあった」と回答した学生は56.4%で、両者を合わせると87.6% (図15-1) であった。



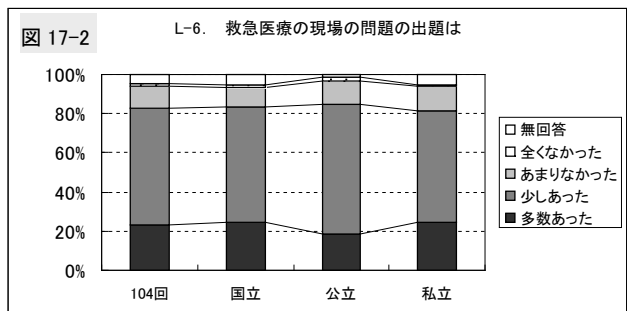
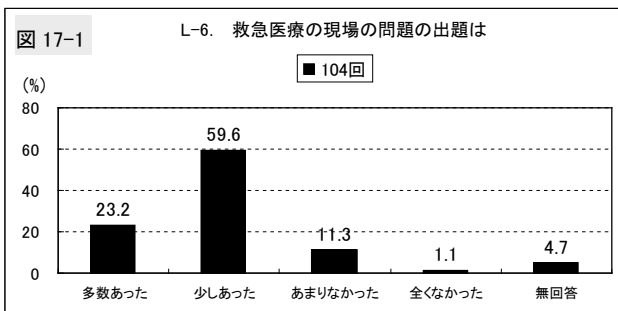
5. 在宅医療や地域医療などを知っていないと回答できない問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は17.7%、「少しあった」と回答した学生は50.9%で、両者を合わせると68.6% (図16-1) であった。



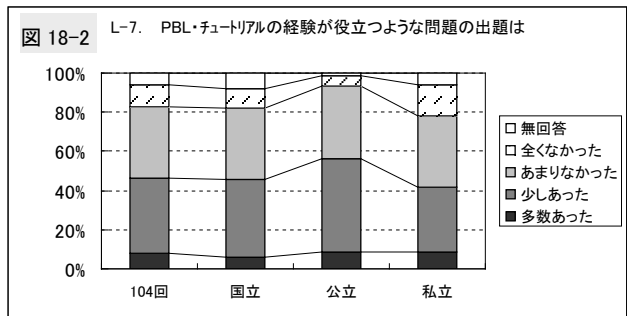
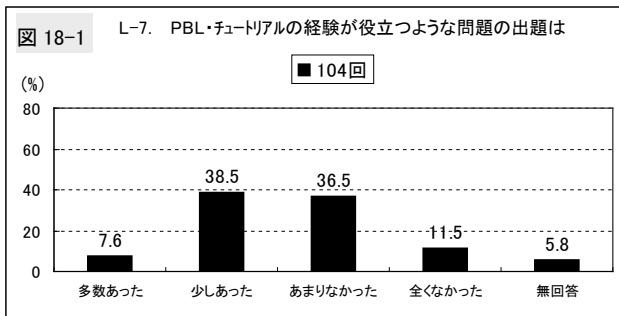
6. 救急医療の現場を知っていないと回答できないような問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は23.2%、「少しあった」と回答した学生は59.6%で、両者を合わせると82.8% (図17-1) であった。



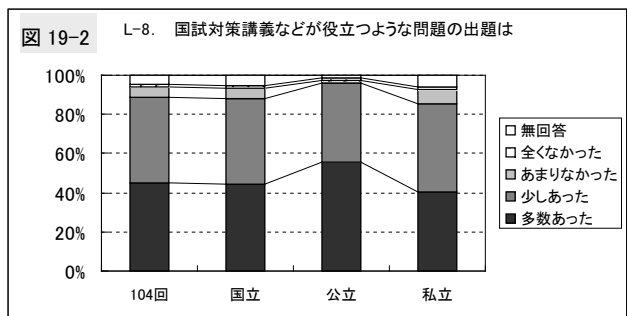
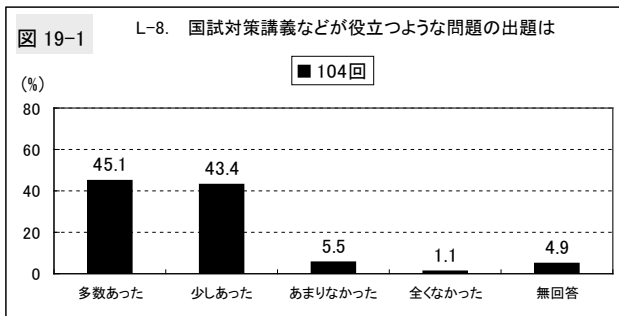
7. PBL・チュートリアルを経験していないと回答できないような問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は7.6%、「少しあった」と回答した学生は38.5%で、両者を合わせると46.1% (図18-1)であった。「あまりなかった」と「全くなかった」との回答を合わせると48%であった。



8. 国試対策講義や模擬国試が役立つような問題の出題は

「多数あった」と回答した学生は45.1%、「少しあった」と回答した学生は43.4%で、両者を合わせると88.5% (図19-1)であった。



【P】医師国家試験に関する意見

アンケートの最後に、受験生に医師国家試験に関する自由な意見を書いてもらった。表5に示すように、良好なコメントは6件、批判的なコメントは156件であった (表5)。昨年の調査では、前者は16件、後者は82件であった。欄外に示されたコメント (表6) とあわせて、学生の生の声として受け取っていただきたい。

なお、過去8回の国試で学生から寄せられたコメントの総数を比較したのが表7である。昨年に比べて、良好なコメント、批判的なコメントの両者ともに減少している。内容を見てみると、問題についてのコメント(質、難易度、偏り、等)の数は昨年と同程度であるが、問題数、回答時間に関するコメントおよび卒前教育に関するコメントの数が減少している。卒前教育に関するコメントの減少は、大学での学習内容と国試問題の整合性に関する設問Lで、「整合性あり」との回答が高かったことと矛盾しない結果であった。

受験生に対するアンケート調査のまとめ

今回実施したアンケート調査の結果は以下のようにまとめることができる。

- ① 第104回国試について、「満足」と回答した学生の割合は16.2%で、一昨年より6.4%低下し、昨年とほぼ同程度の数字であった。この数字は、過去9回の調査の中では中位に位置する数字である。ま

た、「不満」、「少し不満」と回答した学生は61.0%で、一昨年より11.7%増加し、昨年と同程度の数字であった。

一方、昨年の国試と今回の国試との比較では、「悪くなった」との回答が「良くなった」との回答を大きく上回っているものの、比率の上では「悪くなった」との回答が減り、「変わらない」との回答が増えていた。

以上のことから、学生の感覚としては、第104回国試の全般的な満足度は、一昨年よりは低く、昨年の国試とほぼ同程度、過去9回の調査の中では中位に位置付けられるようである。

- ② 問題の形式別に見てみると、一般問題と臨床問題については「適切」との回答が昨年より増加している一方、必修問題については「適切」と回答した学生は、昨年に比べ4.1%、一昨年に比べ25.2%低下していた。また、必修問題が「不適切」との回答は54.7%で、今までの調査の中で最も高い数字であった。学生のコメントにも、必修問題に対して、難易度を含め批判的な内容が目立った。

以上のことから、今回の国試に出題された必修問題に対して、学生は批判的に感じているようである。

- ③ 問題数、回答時間に関しては、「適切」との回答は高い数字を維持しており、現行の国試スタイルが定着しているものと思われる。画像の質についても過去最高の数字であり、出題委員の努力がうかがえる。
- ④ 昨年度から導入された新形式問題についても、特に大きな問題とはならなかったようである。
- ⑤ 昨年に引き続き、大学での学習と国試との関連について調査を行った。「臨床実習を真面目にやっていないと回答できない問題」が出題されたかどうかをたずねたところ、「多数あった」と「少しあった」との回答が合わせて80.1%であった。多くの学生が、臨床実習の成果が問われる問題が出題されている、と感じているようである。また、「国試対策や模擬国試が役立つような問題」の出題についてたずねたところ、「多数あった」と「少しあった」との回答が合わせて88.5%であった。多くの学生が国試対策や模擬国試を受けており、これらが国試問題によく対応している様子がうかがわれる。
- ⑥ 国試に関する自由意見では、臨床実習を重視する問題の出題について評価する意見が複数見られた。その一方、問題の質、特に必修問題の難易度については様々な意見が寄せられた。試験環境に関する苦情は昨年同様、極めて少なかった。